

主人公は、自分たちのために額が白くなるまでは垂らしたり、眠りを寸断してえびフライを冷やし続けてくれた父親を誇りに思い、感謝した。そんな父親が珍しく冗談を言ったので、信じられずに、笑った。

江畑さん

主人公は、父親の額の白いところを見て、癖は変わっていないくて、父親が帰ってきたといううれしさが改めてこみ上げてきた。そして、「ドライアイス」という物もわかったし、父親が眠りを寸断してまで家族のためにえびフライを持って帰ってくれた優しさで父親の冗談を聞いたことからうれしくなり、笑った。

日比野さん

主人公は、父親の帰りを待ちわびていた。と同時に土産のえびフライもとても楽しみにしていたので、部屋の中まで待ちきれず、すぐ開けた。初めて見たえびフライはとても大きかったのに、父親が「もっと大きいエビがいる」といったのを聞いて、冗談だと思つて、つい笑ってしまった。

青谷さん

主人公は僕たちのために日差し強い中一生懸命働いてくれる父親にありがとうと思つた。さらに、えびフライも僕たちのために一睡もしないで持つてきてくれたことにも感謝している。

それで、気持ちがすごく良くなり、父親のいうことが冗談に思えて、笑った。

織田君

主人公は、父親が帰ってきた喜びと、額にある生白い跡を見て、「ありがとう」という気持ちになったし、見たこともない長いひげのあるエビと聞いて、久しぶりに会った父親が冗談を言うので、思わず笑ってしまった。

池田さん

主人公は、家族のためにがんばって仕事をしている父親に感謝の気持ちでいっぱいだった。そんな父親が土産として持つてきてくれたえびフライは、ものすごく大きいのに、父親がもっと大きいやつがいるという冗談を言うので、思わず笑った。

田中君

主人公は、ドライアイスというものを知っている父ちゃんのことを、感謝したり尊敬しつつ、父ちゃんのすごさに驚いて笑った。

中野君

主人公は、東京まで行って自分たちのために働いて、しかも、おいしいえびフライを食べてほしいためにドライアイスをつさで持ち帰った父に感謝している。また、少年は、父親の土産だけでも美作りしているのに、さらに大きなえびがあると聞き、信じられず、笑ってしまった。

木許さん